

制定	1996年	3月	13日
改正	2007年	4月	1日
改正	2011年	10月	3日
改正	2014年	5月	10日
改正	2015年	8月	1日
改正	2018年	3月	1日

## 執筆要項

日本液体微粒化学会

### 1. 記事の種類とその頁数

記事の種類、内容および頁数は、「投稿規定」に示す通りである。本執筆要項は、「投稿原稿割付見本」に従って執筆しているが、説明の便宜上、読みやすさを優先し、括弧 (1), (2), … 内の説明は、文頭揃えにしている。

### 2. 用紙

#### 2.1 A4 版用紙を使用

「投稿原稿割付見本」の様式に従い、図、表等を割付け、挿入して提出する。ただし、挿入した図、表は鮮明でなければならない。なお、原稿用紙は1頁が28字×55行×2段=3080字相当で、学会誌の刷り上がり1頁に相当する。

#### 2.2 割付けの方法

原稿の題名、著者名、著者所属、英文アブストラクト、本文、図、表等の割付けは、通常、3月号の学会誌に掲載される「投稿原稿割付見本」による。

なお、改正があった場合、3月号以外の学会誌に掲載し、日本液体微粒化学会のホームページにも掲載する（以下、同じである）。

### 3. 原稿

#### 3.1 原稿表紙

通常、3月号の学会誌に掲載されている「原稿表紙」に必要事項を記入する。

#### 3.2 原稿の構成

記事の種類別による書式一覧は、表1に記す通りである。

- 論文の原稿の構成は、次のようにする。  
「表題、著者の氏名および著者の所属、英文表題、著者の氏名の英語表示および著者の所属の英語表示、英文アブストラクト(300語以内)、英語表示のキーワード(5~10語)、本文」
- 論説、随想、解説、技術資料の原稿の構成は、次のようにする。  
「表題、著者の氏名および著者の所属、英文表題、著者の氏名の英語表示および著者の所属の英語表示、本文」
- 会員の窓、会告、その他の原稿の構成は、次のようにする。  
「表題、著者の氏名、著者の所属、本文」
- 責任著者(代表著者)の情報(責任著者の会員資格、連絡先住所、電子メールアドレス)は、原稿第1頁左段下に記載する。なお、投稿論文の場合、

#### 3.3 本文

- 本文(図、表および写真の説明を含む)は、読者にその内容が分かりやすく、正しく理解できるように記述する。

- 本文は、原則として日本語で記述し、簡潔な口語体とし、常用漢字および現代仮名づかいを用いる。
- 本文は、適宜区分して見出しを付け、読みやすくする。見出しの番号は次の例による。

章	1.	2.
節	1.1	1.2
項	1.1.1	1.1.2

#### 3.4 文字および用語

- 文章中の区切りは、読点(,)を使用し、文章の区切りは、句点(.)を使用する。句点、読点は、それぞれ全角1字分とする。  
また、同格の単語を並べる場合、中点(・)を使用する。
- 図、表中の文字・数字・記号に限り、幾分小さくなくてもやむを得ないが、十分読める大きさにする。
- 用語は、原則として文部科学省編「学術用語集」または「JIS用語集」に従う。  
また、特殊用語は、注(\*1,\*2…、上付き)を該当個所に付け、その原稿の下の行に脚注を付けるか、対応する外国語を該当個所の後に括弧( )付きで示す。
- 略語を使用する場合、普通名詞、固有名詞に関わらず、原語で記載する。  
また、一般に周知されていない略語を使用する場合、最初に使用した箇所で正確な原語を付記する。

#### 3.5 数字および数式

- 量や序数を表す数字は、アラビア数字を使用し、漢字と結合して名称や概数を表す場合、漢数字を使用する。  
[例] 10 m, 図1, 表12, 第4章  
三角形, 数百例, 二, 三の例
- 小数点および桁区切り  
小数点は、0.123, 桁区切りは、456789のように書き、.123や456,789のように書かない。
- 数式を本文中に書く場合、次の形式Aのように、1行に収まる表記法を用いる。
- 行を改めて数式のみを書く場合、形式Bの使用を推奨する。必要に応じて式番号を付ける。
- 本文中に式番号を記載する場合、式(1), 式(2), … のように書く。

形式 A	形式 B
$(a+b)/(c+d)$	$\frac{a+b}{c+d}$

#### 3.6 単位・量・数学記号・化学記号

- 単位・量記号  
単位・量記号は、SIによる。
- 数学記号  
数学記号は、「JIS Z 8201」(数学記号)による。
- 化学記号

化学記号は、万国化学記号による。

- (4) 数学記号、化学記号、数値および単位は、半角英数字で書き、物理単位と数値の間に半角スペースを入れる。ただし、割合（百分率）を示すパーセント%は、単位でないため、%の前の半角スペースは不要である。

### 3.7 図（画像を含む）および表

- (1) 論文、論説、随想、解説、技術資料の図題、表題は、英語で記述する。図番は、Fig.1, Fig.2, …、表番は、Table 1, Table 2, …のように通し番号として、9ポイント、Times New Roman で表記する。図、表を本文中で引用する場合、図 1, 図 2…、表 1, 表 2…とする。
- (2) 会員の窓、会告、その他の図題、表題は、日本語で記述する。図番は、図 1, 図 2, …、表番は、表 1, 表 2, …のように通し番号として、9ポイント、MS 明朝で表記する。
- (3) 論文の場合の図、表の内容は、全て英語とする。
- (4) 図番、図題は、図の真下中央に書き、表番、表題は、表の真上中央に書く。
- (5) 図の描き方は、原則として「JIS B 0001」および「JIS Z 8301」による。
- (6) 提出された図は、そのまま写真製版して印刷するため、線の太さ、文字の大きさなどに注意して、原則、白黒で作成する。
- (7) 不鮮明な図、表に対しては、本会から再提出を要請することがある。
- (8) 画像は、図に準じ、原則として白黒とし、鮮明なものではない。不鮮明な画像に対しては、本会から再提出を要請することがある。画像の図番は、他の図と通し番号とする。
- (9) カラー画像、図、表の掲載を希望する場合、「投稿規定細則」で規定している通り、実費を徴収する。
- (10) 表（図がある表も含む）は、そのまま写真製版して印刷するため、上記（5）に準ずる。

### 3.8 文献

- (1) 著作権について、著者が責任を持って対処する。
- (2) 本文中の参考文献の記載方法は、通し番号を付けて、本文の該当箇所に上付き添字<sup>(1)</sup>または<sup>(2)</sup>、<sup>(3)</sup>あるいは<sup>(4)</sup>–<sup>(8)</sup>のように示し、本文の末尾に文献としてまとめて記載する。
- (3) 雑誌の場合の記載方法は、次のようにする。  
著者名、題名、雑誌名、巻、号（西暦発行年）、始めと終わりの頁、句点（.）の順に記載し、著者名は連名者も含めて全員の姓名（フルネーム）を記載する。  
著者名と題名の間は、コロン（:）を付ける。文献の記載が2行以上になる場合、[例]のように、文頭を揃える。

[例]

- (1) 京都太郎, 仙台次郎: 液化ブタン噴霧の特性, 微粒化, 10-5 (2000), 145-148.
- (2) John, R., Schmidt, P., Thompson, G.: Characteristics of Spray Injected through Hole Nozzle, J. Atomization, 11-2 (2001), 28-30.
- (4) 書籍の場合の記載方法は次のようにする。著者名、書籍名、発行所（西暦発行年）、始めと終わりの頁の順に記載する。

[例]

- (1) 今出川一郎: 微粒化機器の設計, 京都書籍(1995), 79-82.
- (2) Smith, T. : Mechanism of Atomization, London Pub. Inc., (1991), 34-39.

## 4. 原稿の提出

- (1) 論文の最初の投稿時、再校閲用の論文の提出時および論文の最終の原稿の提出時に必要な提出物は、表 2 の通りである。
- (2) 論文の最終原稿（掲載可の論文）、その他の記事は、原則として提出された最終原稿をオフセット印刷する。最終原稿は、著者の責任において「投稿原稿割付見本」の書式に従って Microsoft Word で作成し、Word ファイルおよび pdf ファイルを提出する。
- (3) 最終原稿の提出方法は、以下のいずれかの方法で提出する。
- ①メールの添付ファイルで送付する。
  - ②電子媒体（CD-R 等）に記録し、郵送する。
  - ③紙媒体の原稿を必要部数、郵送する。

## 5. 適用期日

本執筆要項は、原稿受付日が 2015 年 8 月 1 日以降の投稿から適用する。

## 6. 執筆要項の改廃

本執筆要項の改廃は、軽微な修正以外、理事会の承認を必要とする。

表 1 記事の種別による書式一覧

記事の種別	英文 アブストラクト	英語表示の キーワード	図、表の題名と 説明文
論文	要	要	英語
論説, 随想, 解説, 技術資料	不要	不要	英語
会員の窓, 会告, その他	不要	不要	日本語

表 2 投稿時に必要な提出物

記事の種別	原稿表紙	原稿	質問と回答
論文の初稿原稿	要	Word ファイルと pdf ファイル (もしくは A4 版コピー4 部)	—
再校閲用の論文の提出	不要	Word ファイルと pdf ファイル (もしくは A4 版コピー4 部)	Word ファイルと pdf ファイル (もしくは A4 版 コピー4 部)
論文の最終原稿	不要	Word ファイルと pdf ファイル (もしくは A4 版原本 1 部と コピー1 部)	不要
論説, 随想, 解説, 技術資料	不要*1	Word ファイルと pdf ファイル (もしくは A4 版原本 1 部と コピー1 部)	—
会員の窓, 会告, その他	不要*1	Word ファイルと pdf ファイル (もしくは A4 版原本 1 部と コピー1 部)	—

\*1: 著者のオリジナルな内容が含まれる学術的な解説, 技術資料の投稿時, 原稿表紙が必要である。  
また, 会誌委員会が必要と認めた場合, 原稿表紙の提出を要請する場合がある。